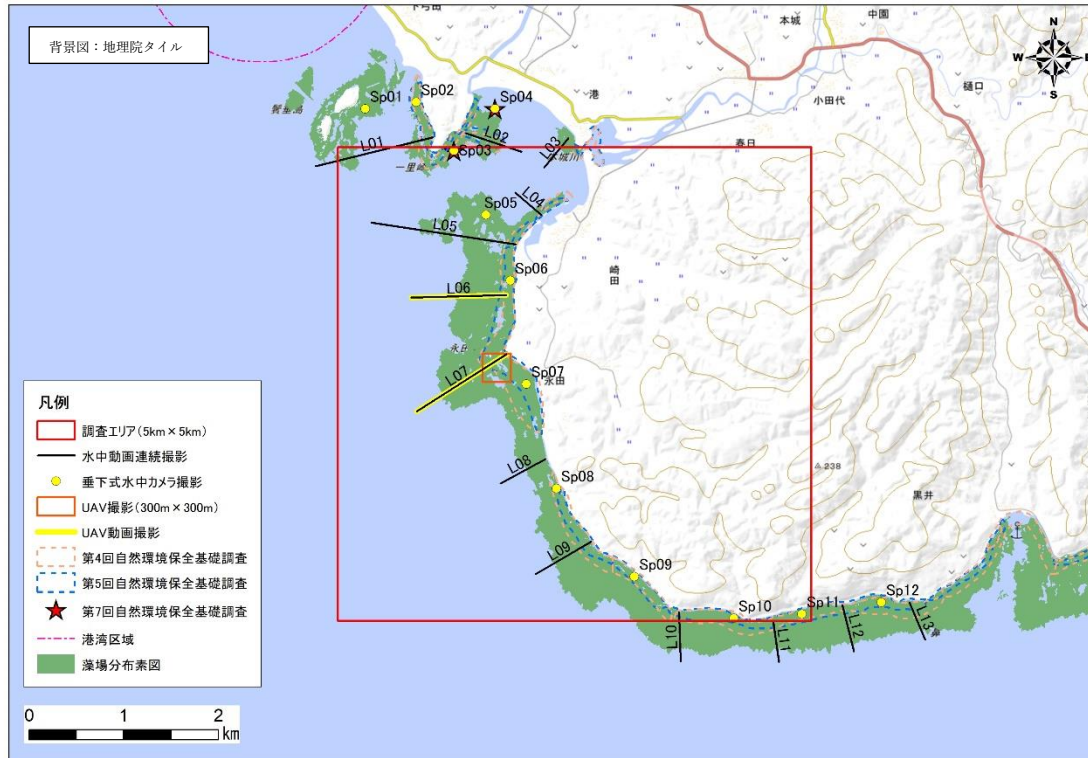


(1) 調査海域名	四国-九州沿岸海区 志布志湾北岸
(2) 調査海域の所在	宮崎県 串間市地先
(3) 調査海域及び調査位置図	

【調査位置図】



(4) 調査位置の詳細 (WGS84)

詳細な位置情報は掲載しておりません。詳細な位置情報を希望される場合は、藻場調査ウェブサイトの「現地調査の結果」の「調査結果 (データ)」をご覧ください。

【水中動画連続撮影】

ライン 番号	岸側基点		沖側基点		測線長 (m)
	緯度	経度	緯度	経度	
1	-	-	-	-	1,271
2	-	-	-	-	622
3	-	-	-	-	401
4	-	-	-	-	362
5	-	-	-	-	1,544
6	-	-	-	-	1,001
7	-	-	-	-	1,124
8	-	-	-	-	538
9	-	-	-	-	677
10	-	-	-	-	516
11	-	-	-	-	433
12	-	-	-	-	503
13	-	-	-	-	419
測線長 計					9.4km

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-
11	-	-	-	-
12	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影範囲）】

撮影範囲	緯度		経度	
A	-	-	-	-
B	-	-	-	-
C	-	-	-	-
D	-	-	-	-

(5) 調査年月日 令和2年12月8日、12月9日 (UAV撮影：12月10日)

(6) 調査実施者 株式会社パスコ 雑賀修一 (調査責任者)

(7) 調査海域の概要

本海域は、志布志湾北東部に位置している。第7回自然環境保全基礎調査では、ヒラネジモクが優占するガラモ場やコアマモが優占するアマモ場が確認されている。藻場消失の著しい九州南部では貴重なガラモ場である。

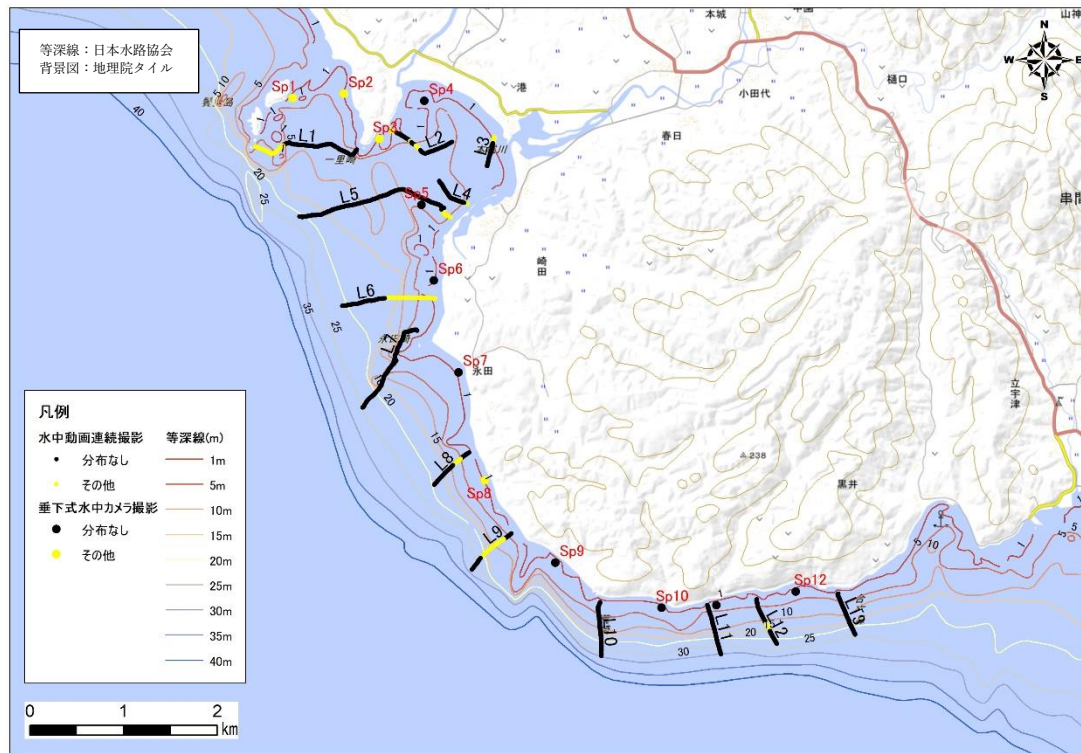
本海域を含む都井岬・志布志湾周辺は、生物多様性の観点から重要度の高い海域（沿岸域）に指定されており、本城川河口～千野川河口の河口干潟には、多様な塩生植物に加え、タケノコカワニナ、ハザクラガイ、フトヘナタリなどの希少種が生息する。

現地調査は、一里崎から東側にみられる藻場を対象として実施した。

志布志湾北岸での高度100mの年間平均風速は7m/s前後となっている（NeoWins（洋上風況マップ）：NEDO）。

(8) 調査結果 ①水中動画連続撮影

【確認結果平面図】



測線 1：一里崎西側から鬢垂島にかけての調査測線、水深 D.L-3.8～-10.9m、底質は一里崎側で主に砂、鬢垂島側で岩盤、巨礫、礫、砂が混在していた。鬢垂島側の岩盤、礫上等に小型藻類が確認された。

測線 2：一里崎東側の調査測線、水深 D.L-2.4～-7.5m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在していた。岩盤上の一部に小型藻類が確認された。

測線 3：本城川河口付近の調査測線、水深 D.L-2.6～-4.1m、底質は主に砂であるが、部分的に巨礫、礫が混在していた。礫上等に小型藻類が確認された。

測線 4：本城漁港周辺の調査測線、水深 D.L-2.7～-6.9m、底質は岸よりの水深 D.L-4m 程度までは巨礫、礫の混在であるが、それ以深は砂となっていた。礫上等に小型藻類が確認された。

測線 5：本城漁港周辺の調査測線、水深 D.L-1.1～-21.1m、底質は主に砂であるが、部分的に巨礫、礫が混在していた。岸よりの水深 D.L-6m 程度まではサンゴや石灰藻類の分布が確認された。

測線 6：都井岬西方の調査測線、水深 D.L-2.0～-20.7m、底質は岸側の水深 D.L-17m 程度までは巨礫、礫、砂が混在し、それ以深は砂となっていた。礫上等にサンゴや石灰藻類の分布が確認された。

測線 7 : 都井岬西方の調査測線、水深 D.L-1.9~-25.3m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 8 : 都井岬西方の調査測線、水深 D.L-3.5~-21.7m、底質は水深 D.L-15m 程度までは巨礫、礫、砂が混在し、それ以深は砂となっていた。礫上等の一部に小型藻類が確認された。

測線 9 : 都井岬西方の調査測線、水深 D.L-3.7~-31.1m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。岩盤、礫上等に部分的に小型藻類が確認された。

測線 10 : 都井岬西方の調査測線、水深 D.L-3.4~-31.9m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 11 : 都井岬西方の調査測線、水深 D.L-2.4~-28.6m、底質は岩盤、巨礫、礫、砂が混在し、多様であった。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

測線 12 : 都井岬西方の調査測線、水深 D.L-4.3~-24.5m、底質は主に巨礫、礫、砂が混在していた。礫上等の一部に小型藻類が確認された。

測線 13 : 都井岬西方の調査測線、水深 D.L-5.2~-24.6m、底質は主に巨礫、礫、砂が混在していた。小型藻類を含めアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。



小型藻類 (測線 8)



小型藻類 (測線 9)

(8) 調査結果 ②垂下式水中カメラ撮影

【垂下式水中カメラ撮影 調査結果一覧】

地点番号	水深 (D. Lm)	底質	主要な藻類 (種名・被度)	備考
Sp1	-8.8	岩塊・巨礫、砂・泥	小型藻類10%	
Sp2	-1.0	岩塊・巨礫	石灰藻類30%	サゴゝ多数
Sp3	-5.6	岩塊・巨礫	石灰藻類30%	サゴゝ多数
Sp4	-1.7	砂・泥	-	
Sp5	-9.1	砂・泥	-	
Sp6	-1.3	礫	-	サゴゝ多数
Sp7	-0.4	岩塊・巨礫、礫	-	
Sp8	-1.4	岩塊・巨礫、礫	石灰藻類30%	
Sp9	-1.1	岩塊・巨礫、礫	-	
Sp10	-2.5	岩塊・巨礫、礫	-	
Sp11	-4.6	岩塊・巨礫、礫	-	
Sp12	-3.5	岩塊・巨礫、礫	-	



サゴゝと石灰藻類 (地点3)

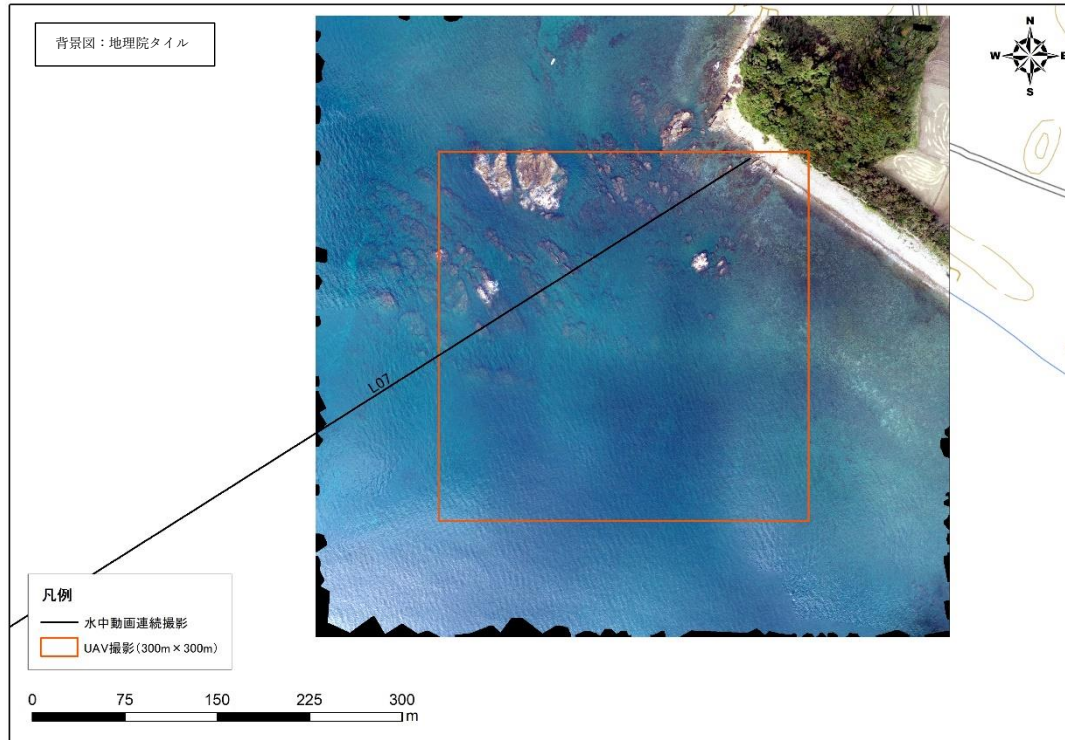


石灰藻類 (地点8)

(8) 調査結果 ③UAV 撮影

【UAV 撮影結果 簡易オルソ画像】

簡易オルソ画像からは、撮影範囲 (300×300m) 内に広がっている岩盤の形状は確認できるが、藻場の分布に関しては明確ではない。



撮影時間	潮位※ ¹	風向・風速※ ²	波高※ ³	撮影高度	備考
2020/12/10 13:00~14:00	D.L 1.59m	西北西 1.9m/s	0.5m 以下	149m	

※¹ 潮位は、気象庁志布志検潮所における 13 時時点の潮位表基準面上の値

※² 風向・風速は、気象庁串間観測所における 13 時時点の値

(10) まとめ

調査海域は、宮崎県串間市、都井岬の西方に位置する志布志湾北岸の岩礁域や河口干潟のみられる海域である。

現地調査では、測線 10 を除いて、各測線では小型藻類の分布はみられたが、測線、地点ともにアマモ類、大型褐藻類の分布は確認されなかった。

(11) その他特記事項

※ 潮位補正は、気象庁推算潮位の志布志 (SHIBUSHI) を用いた。